



消防学校 ニュース



令和2年2月号

消防職員専科教育救急科(第29期)

前編

令和2年1月7日(火)、県内16消防本部(局)から、専科教育救急科に新たに救急業務に従事する121人が入校しました。2月28日(金)までの約2か月間、救急に関する基礎知識や応急処置に必要な専門知識、技能を習得します。前半1月は座学中心、2月に入って実習が多くなります。その様子を紹介します。

1月は、県内外の名だたる医師から解剖・生理に始まり救急の基礎知識を学びました。その後、各消防本部(局)の支援隊から救急隊員として必要なスキルを学びました。

今後、終盤に向け、外因性・内因性のシミュレーション、病院実習、実地研修を実施していきます。詳しくは来月号(後編)で紹介します。

入校式直後にプレテスト！
みんな真剣そのもの



救急科で教育できる期間は限られています。
学生は事前課題に取り組み、救急隊員としての
基礎的な知識を事前に学んで入校しました。



インフルエンザ等の感染を意識してマスクをしている学生は多数！

医療従事者としての自覚も芽生えた・・・???

グループディスカッション



使用できるツ
ールは何でも
使う



1次救命処置



救急現場に必要な
スキルを学ぶ



担当教官から一言

私が考える素晴らしい救急隊は、救急救命士だけではなく、出動隊員の全員が高度な医学的な知識と技術を持っていることです。救急科の総仕上げとして、病院実習やシミュレーション実習を行います。今まで学んだ知識を深め更に技術を高めていくことを期待します。

☆後編へ続く・・・

教務課 主査 丸子修平（富士山南東消防本部より派遣）

台湾内政部消防署訓練センター 「108年度火災搶救指揮訓練課程」講師派遣特集

本県は台湾の7市1県の消防局を中心に防災に関する交流協力関係の維持拡大を図っています。台湾全土の消防職員が研修を受け、敷地面積109haを有し、アジア最大の訓練施設である台湾内政部消防署訓練センターから本県あて消防訓練の講師派遣の依頼があり、令和元年11月19日（火）～27日（水）及び12月3日（火）～11日（水）の各回9日間において、消防保安課職員1人、学校教官3人、県内消防吏員2人の合計6人を派遣しました。



消防保安課	見城 寛樹（静岡市消防局から派遣）
消防学校	永田 佳寛（磐田市消防本部から派遣）
消防学校	中村一二三（静岡市消防局から派遣）
消防学校	丸子 修平（富士山南東消防本部から派遣）
志太消防本部	見原壮一郎（支援教官）
駿東伊豆消防本部	橋詰 雄大（支援教官）



「108年度火災搶救指揮訓練課程」では、台湾全土から160名の指揮者クラスの消防士が5日間に渡り、火災救助指揮についての研修を受けました。カリキュラムには「教育技法」、「火煙判読（リーディングスモーク・リーディングファイヤー）」、「RIT」等の部下教育から現場指揮に必要な実践的内容の中、本県から派遣された講師陣は「現場指揮要領」「安全管理」「指揮シミュレーション訓練」を担当しました。



現場指揮要領では状況評価から始まる指揮活動の一連の流れや日本における指揮隊の運用について紹介しました。日本と台湾では消防の組織体制に違いはあるものの、災害現場を統括する指揮者の心構えや役割に違いはありません。効果的な指揮活動のためには平素からのコミュニケーションとトレーニングが必要です。一見現場指揮と直結しないような日常生活の中にも指揮能力向上への気付きがあふれています。「指揮をとる」という事の責任について学生から多くの質問が寄せられ、関心の高さが伺えました。

安全管理では科学的な視点からヒューマンエラーや不安全行動を中心に、日本の安全管理教育を紹介しました。日本でも台湾でも消防活動中の重大事故が発生しています。「安全管理の徹底！」と声高に叫ぶだけでは効果はなく、危険を知り管理できる安全管理能力が必要です。「危険を知る」とは、災害現場の状況を正確に評価できる能力と人間がミスをしてしまう特性への理解と対策が必要です。それに加えて消防戦術への共通認識と実行できる資器材とスキル、的確な状況評価による指揮統制が高いレベルでバランスよく揃ってこそ任務遂行を前提とした積極的行動方策としての安全管理がありえるのだと思います。このことについては台湾内政部消防署訓練センターの教官とも大いに語り合いました。



急遽「指差し呼称」を展示！

台湾では頻発する事故に対する対策の一つとして今後「指差し呼称」を取り入れていきたいとのお話をいただきました。「指差し呼称」の実施は、何もしない時に比べ、ミスの発生率を約6分の1に軽減させることができるものです。そこで、本県消防学校初任科教育で実施している訓練の展示を行うことにしました。初任科教育において、ポンプ操作は火災現場経験のない若者に消防活動の基礎的手技と隊員の役割を把握させることに特化する形に内容を変更し、併せて「指差し呼称」の徹底により科学的にミスを軽減させることを習慣づけるために活用しています。車両は2017年に下田市から訓練センターに寄贈されたものを使用し、乗車から吸管操作、放水操作までを「指差し呼称」の徹底をもって展示しました。台湾の学生たちは「指差し呼称」の意義の説明を受けた後、展示に興味深く見学してくれました。台湾が将来「指差し呼称」を導入・普及にするにあたり今回の学生たちが積極的に貢献してくれたら幸いです。



指揮シミュレーション訓練

2階建て木造住宅の建物火災を想定し、指揮隊、先着タンク隊、後着中継ポンプ隊のほか、各部隊の連携と先着中隊長の活動要領や大隊長の指揮及び指揮板を使用した情報収集伝達手段の確認を行えるよう構成しました。学生たちは役割を交代し、繰り返し実施することで基本的作業の習得と、学生たちの積極的な姿勢により新たな気づきが得られ、回を重ねるごとに様々な指示や情報が補完され、充実した訓練をすることができました。



休日には台中市政府消防局特捜大隊捜救犬隊、921地震教育センター、台中市南屯消防署分隊等を見学させていただき、交流を深めました。今回の派遣を通じて台湾消防の素晴らしさ、日本消防の良いところを改めて認識できました。知識・技術の面で、日本は台湾に学ぶべき点は非常に多く、私たちはともに学び、さらに向上していかなければならないと強く感じました。



台中市南屯消防署分隊

消大レポート（消防団活性化コース）第6回

令和2年1月20日（月）から24日（金）までの5日間、消防大学校における危機管理・防災教育科消防団活性化推進コース（第6回）に全国から33名の仲間が集いました。本コースは消防団事務や教育訓練に関わる消防吏員だけでなく、防災担当の市町行政職員や団体職員など幅広い顔ぶれが集まり、専門家による講義や学生同士の研究活動を通じて消防団の活性化施策について多角的に学びました。

研修は消防団関連法制に始まり、国の予算や加入促進、教育訓練、現状及び課題など多岐にわたり、非常に内容の濃いものでした。また、年齢や階級に関係なく胸襟を開いて仲間とディスカッションすることができ、多くの刺激を受けると同時に、これまでの自身の仕事を見つめ直す良い機会となりました。

今回の研修で学んだことを今後の教育訓練に活かすとともに、全国の仲間との新たな繋がりを大切にしていこうと思います。飯泉助教授をはじめ、消防大学校で教育訓練を担当された助教授の皆様、そして研修を受ける機会を与えてくださった皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

教務課 主任 土屋 裕一（県職員）



課題研究における班発表のひとコマ（左から二人目）



防災まち歩きの様子（危険箇所をチェック）



指揮シミュレーション訓練（消防署長担当）
（左から二人目）



防災マップを作成中（手前）

塩崎ぜっ校長

ワンチョット(チョイネタ)コーナー

今月のつぶやき



初任科第 90 期のビデオ

2月のある日、誰もいないグラウンドを見て、「初任科第 90 期の学生が修了してもう 5ヶ月が経つなあ」なんて考えた。

初任科修了後の昨秋に教育訓練の様子を収めたビデオ販売があった。老後の楽しみ(昔を懐かしむ)のため早速購入。

冬休みにじっくり見ようと思ったが、忘れていた。

先日、家で夕食後に観てみた。1枚のDVDに2時間半以上の映像が入っていた。

入校・入寮手続き、入校式(皆、緊張して難儀していたな)

浜石岳訓練(チームで助け合いは大事、弁当が美味しそう)

真夏のヘビーな訓練は続く(皆、暑さに負けず頑張っている、すごいぞ)

夜間強歩(皆、根性を見せていた、足のマメが痛そうだ)

県民の日行事の訓練体験とオープンスクール(私の息子も参加させてもらいました)

実科査閲(学生の真剣な姿に混じり、校長もちょっぴり写っているぞ…)

修了式(みんな修了おめでとう、感動)

最後は学生が思い思いの嗜好を凝らした一発ネタを披露していた。

訓練中は、皆キリリと引き締まった表情だが、訓練外では、普通の今時の若者の表情を見ることが出来る。

何か、ほほえましくホッとする。ちょっと前のことなのにとっても懐かしい。

若者達は皆、現場で頑張っているのかなあ、若いっていいなあ、なんて考えるぜっ校長でありました。



初任科第 90 期の皆さん
(消防学校の裏山にて)

次号も乞うご期待！
救急科の後編、火災
調査科を中心にお届
けします！



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1

☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

